

令和5年9月1日

保護者の皆様

福井市中藤小学校

校長 佐藤 勉

令和5年度 第1回学校評価の集計結果報告について

残暑の候、皆様方には益々ご清祥のことと、心からお喜び申し上げます。平素は何かと本校教育の発展のために、深いご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度第1回学校評価（7月アンケート実施）の結果を集計しました。結果を分析したところ、下記のような成果と課題がうかがえますので、お知らせします。結果を真摯に受け止め、今後の学校教育に生かしていきたいと思えます。ご協力誠にありがとうございました。

記

集計結果

（「よくあてはまる」＋「ややあてはまる」）からの考察 ◎よかった点▼改善点▽気になる点

○児童アンケートより

- ◎90%を上回るものは10項目あり、コロナ禍後に通常の学校活動が再開されつつある中で、子どもたちは有意義な学校生活を送ることができていると実感している様子がうかがえる。また、学習に関する項目や教師・級友・他学年との関わりに関する項目においての割合が非常に高く、教職員と児童、児童同士の信頼関係のもと、本校の学習活動が行われていると考える。
- ◎「ふるさと福井を大切にしたいという気持ちをもっている」が95%となり、前年度より6%上回った。日々の学校生活や地域を題材とした学習活動と、地域の方々とのふれあいを通して、子どもたちがふるさととのよさに気づき、郷土愛を育むことができていると考えられる。
- ▼「学校がたのしい」が前年度より4%下回った。様々な要因が考えられるが、コロナ禍後の学校生活や社会生活の変化に対応する難しさも影響していると考えられる。今後、子どもたちの実態や気持ちに寄り添いながら、学校が「楽しい」と感じられる学習活動や「できる」喜びを感じられる学習活動を取り入れる努力をしていきたいと考える。
- ▼前年度と同様に、「すすんで～できる」の項目についての評価が全体的に低い。児童が自分で考えたり決定したりしながら、よいと思う行動を取ったり、自分の興味関心のあることについて主体的に学んだりしていくことができるような学習活動を計画・実践していく必要があると考える。
- ▼「すすんで読書をしている」が前年度より4%下回った。子どもたちの読書離れがすすんでいるように思われるが、4月から図書館運営が再開され、自由に本が借りれるようになったことを機に、読書の魅力が感じられるような取組を行い、子どもたちの読書習慣の形成に尽力したいと考える。

裏面に続く

○保護者アンケートより

◎「我が子を安心して学校へ通わすことができている」「学校は保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えている」「我が子は学校生活を楽しんでおり、友人関係も良好である」の項目において、90%以上の高い評価を得ることができた。今後も保護者の皆様のご理解とご協力と信頼関係を大切にしながら、学校開放、情報の発信を積極的に推進していき、子どもたちにとって一番大切な「安心して安全な学校づくり」に努めていきたいと考える。

▼前年度の数値と比較すると、全ての項目で評価が下がっている。また、「わからない」の回答が増えている。上記の90%以上の項目も含めて、今後も各種お便り、ホームページ、連絡エクステンジなどを活用して、保護者の皆様に学校の情報を発信し、本校の取組を理解していただくだけでなく、子どもたちの学校生活の様子をより詳細に知っていただけるように努めていきたい。

▽気になる点として、次の項目について保護者と児童のアンケート結果の数値に開きがある。「将来の夢や希望をもっている」→児：92% 保：60%、「すすんで読書に取り組んでいる」→児：72% 保：41% 保護者と児童の意識に差がある理由として、将来の夢や希望に関して家庭で会話をする機会が少ないことや、読書に関しては、各家庭で子どもたちが読書をする機会が少ないことが考えられる。今後、PTA 活動や学校での活動を通して、各家庭でのコミュニケーションを促す取組を推進し、学校と家庭が一体となって子どもたちの教育を考えていけるようにするとよいと考える。

○教職員アンケートより

◎「授業づくり」「道徳の指導」「家庭学習の指導」等の学習活動に関する項目では、90%を上回っている。学年や各研究グループで話し合いながら、各教職員が授業づくりに熱心に取り組んでいる。今後も子どもたちの学びがより深まるよう、よりよい授業づくりに努めていきたい。

▼「キャリア教育」「郷土福井への関心を高める活動」の取組に関する評価が80%を下回っている。児童の評価は高いが、教職員の評価は低くなっている。教職員は、コロナ禍後の新しい生活様式や教育活動への変化に対応するために、試行錯誤を重ねながら教育活動を行っている。今後も引き続き子どもたちの学びの様子を見取って価値付け、課題面をしっかりと分析し、教育活動に生かしていく必要があると考える。

▼園、小、中のスムーズな移行支援に関しての評価が低くなっている。これまでのコロナ禍により、活動や交流が制限され、十分な取組が行えていなかったことが原因と考える。移行支援の取組は、今後段階を追って進められていくため、より効果的な取組となるよう工夫していきたい。

▽気になる点として、タブレットの活用状況が挙げられる。今年度から新たに加わった項目であるため、前年度との比較はできないが、教職員の評価は50%を下回り、あまり活用できていないと感じている教職員が多い。タブレットに関しては、より効果的な活用方法を日々模索中である。今後、教職員間での情報交換や研修を積み重ね、子どもたちの学びが深まる有効なツールとしてよりよい活用を目指していくよう努める。

※今回の結果を真摯に受け止め、今後の教育活動等の改善・充実に生かしていきます。

次回の調査は12月に実施する予定です。ご理解とご協力をお願いします。

保護者の皆様

家庭数配付
令和5年9月1日

福井市中藤小学校
校長 佐藤 勉

令和5年度 第1回学校評価の集計結果

【児童の回答】

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

	質 問	A	B	C	D
1	先生はあなたの成長を考え、真剣にしかってくれる	73%	22%	5%	1%
2	先生は、授業中 あなたが「わかる・できる」ように、一生懸命教えてくれる	76%	20%	3%	0%
3	学校が楽しい	59%	30%	8%	4%
4	みんなで何かをするのは楽しい	77%	18%	4%	1%
5	授業に 自分から すすんで 取り組んでいる	47%	40%	10%	2%
6	授業がよくわかる	64%	31%	4%	1%
7	道徳の時間には考えを深めることができています	57%	36%	6%	1%
8	いじめをみたら 大人に知らせたり 止めたりすることができ	44%	39%	13%	4%
9	将来の夢やめざす目標をもっている	74%	18%	5%	3%
10	ふるさと福井を 大切にしたいという 気持ちを もっている	71%	24%	4%	1%
11	すすんで みんなのために 行動できる	47%	41%	11%	2%
12	自分と友達の意見を比べることで、その違いや新しい考え方について気づくことができる	49%	40%	9%	2%
13	すすんで 読書をしている	43%	29%	20%	8%
14	宿題を わすれずにやっている	71%	25%	4%	1%
15	宿題のほかに すすんで勉強や自主学習をしている	39%	30%	21%	11%
16	委員会や係活動、授業の中で、周りの人のために仲間と協力して仕事ができる	60%	30%	8%	2%
17	他の学年との交流を通して、相手の気持ちを考えながら、思いやりの心をもって接することができる	59%	34%	5%	1%
18	「なかふじスマートルール」を家の人と相談して決め、それを守っている	51%	31%	9%	8%

ア ほぼ毎日 イ 週3回以上 ウ 週1回以上 エ 月1回以上 オ 月1回未満

	質 問	ア	イ	ウ	エ	オ
19	授業でパソコンやタブレットなどをどれくらい使いましたか。	14%	18%	26%	32%	10%

【保護者の回答】

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない E わからない

	質 問	A	B	C	D	E
1	毎日、わが子を安心して中藤小学校へ通わせることができています	54%	43%	3%	0%	0%
2	学校は、子どもたちの「わかる・できる」を大切にした授業づくりを行っている	26%	53%	5%	0%	15%
3	学校は、子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、心温かく指導している	28%	54%	7%	0%	10%
4	学校は、不審者への対応や交通安全など安全面について適切に指導している	25%	56%	5%	1%	13%
5	子どものことで、気軽に学校に相談できる	29%	49%	15%	2%	5%
6	学校は、「PTA総会」「懇談会」「学校だより・学年だより」「ホームページ」等を通して、保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えている	41%	53%	4%	0%	3%
7	教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取組を理解できる	65%	24%	4%	0%	7%
8	我が子は、学校生活を楽しくしており、友人関係も良好である	47%	44%	6%	0%	3%
9	我が子は、相手の立場に立ち、思いやりをもって行動している	29%	58%	8%	1%	5%
10	我が子は、地域に愛着をもっている	29%	46%	14%	0%	12%
11	我が子は、将来の夢やめざす目標をもっている	21%	39%	27%	3%	10%
12	我が子は、積極的に読書に取り組んでいる	14%	27%	40%	18%	1%
13	我が子は、家庭学習（宿題や進んで勉強、自主学習）を忘れずに取り組んでいる	40%	42%	14%	3%	0%
14	学校は、進級や園からの進学、中学校への進学について、適切で効果的な支援を行っている	17%	38%	14%	2%	29%
15	学校は、情報モラル（なかふじスマートルールなど）について、我が子の年齢に応じた指導を行っている	26%	50%	7%	0%	16%

○ 児童用の質問は高学年版を載せています。中・低学年には、学年に応じた質問の表現になっています。

○ 保護者の皆様方におかれましては、お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

【裏面に続く】

【教職員の回答】

A よくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない

	質 問	A	B	C	D
1	本校は、発達段階や一人一人の児童に応じた授業づくりに熱心に取り組んでいる	46%	46%	9%	0%
2	本校は、道徳の授業時間を確保し、心を見つめさせたり生き方について考えさせたりする指導に努めている	77%	20%	3%	0%
3	本校は、児童が夢や目標をもち、その実現に向け努力するよう、キャリア教育に力を入れている	17%	57%	26%	0%
4	本校は、関係機関と連携をとったり、校内で情報を共有したりして、気になる児童に十分な支援を行っている	69%	29%	3%	0%
5	本校は、児童生徒が郷土福井への関心を高めたり、大切に感じたりできる活動に十分に取り組んでいる	14%	54%	31%	0%
6	本校は、スクールプランに基づき、目指す子どもの姿の実現に向けて、協働して取り組んでいる	31%	57%	11%	0%
7	本校は、中学校区として目指す子どもの姿の実現に向けて取り組んでいる	20%	57%	23%	0%
8	自分は、課題を工夫して、子どもたちが深い理解に至るような授業をデザインしている	29%	68%	3%	0%
9	自分は、発問や問い返しを考えることで、子どもに柔軟に切り返すようにしている	41%	50%	9%	0%
10	自分は、子どもたちの自己との対話、他者との対話を意識し、ホワイトボードや付箋、思考ツールなどで指導の可視化を取り入れた授業をしている	31%	40%	29%	0%
11	自分は、児童が主体的に家庭学習に取り組めるような指導を心がけている	31%	66%	3%	0%
12	(低学年)自分は、小学校と園とで生活ルールの違いなどをスムーズに受け入れられるような移行支援活動に取り組んでいる (中学年)自分は、子どもたちが低学年のお手本となるような、高学年に向けての移行支援活動に取り組んでいる (高学年)自分は、子どもたちの中学校進学がスムーズにいような移行支援活動に取り組んでいる	20%	47%	33%	0%
13	(低学年)自分は子どもたちに学年、学級、家庭で決められた仕事など、みんなのために役立つ活動にやりがいをもって取り組ませている (中学年)自分は子どもたちに、生活の中で自分ができる仕事を見つけさせたり、集団生活の向上につながる活動に取り組ませたりしている (高学年)自分は子どもたちに、学級活動、総合、道徳などの時間を活用し、学校、地域、家庭のためにできることを考えさせ、自分たちにできることを提案させたり、実際に取り組ませたりしている	31%	59%	10%	0%
14	自分は、学年に応じて、情報モラルやネット利用について指導し、児童の意識向上に努めている	25%	53%	22%	0%

ア ほぼ毎日 イ 週3回以上 ウ 週1回以上 エ 月1回以上 オ 月1回未満

	質 問	ア	イ	ウ	エ	オ
15	子どもたちの効果的な学びのために、PC、タブレットなどのICT機器を1クラスあたりどの程度使用したか	22%	25%	28%	16%	9%